

「ここが最初に畑にしたとこやほら、看板立つとるやる」。岩田文月くんが指さしたのは、家の倉庫の脇の、草ボーボーの小さな土地。「草だらけやん」「どこに野菜あるんや」とツッコむ中村俊一朗くんと丸山仁一くん。「草で囲つとるんや」と返す文月くん。

こんな漫才トリオと彼らの弟・妹たちが、今回の農業少年。みんな野菜づくりが大好き……というか、食べることが大好き。

大好物のラッカセイやトウモロコシも、自分たちでつくれば食べ放題。おいしいものは、買うよりタネを手に入れてそでたほうがずっとオトクだ。そんな食いしん坊根性で、見よう見まねで空いた土地を耕しては、タネをまいている。

上/文月くんが最初に開墾した畑。荒地だったが、じつはひいおばあちゃんが30年以上前に野菜をつくっていた場所らしい。下/丸山仁一くんと妹の晶乃ちゃんは庭を開墾。石を掘り起こして園芸用培土を入れ、木枠で囲いをした



フィールド：文月くんの開墾した畑（7㎡・10㎡）、文月くんのおじいちゃんの畑 2.5a、俊一朗くんと仁一くんは自宅前の庭

食べもの買うより、
タネを買う

小学4年、
開墾魂に火が付いた

彼らが野菜づくりに目覚めたきっかけは、幼稚園時代。3人が通っていた幼稚園ではイネや野菜をつくる体験教育に力を入れていて、田畑はみんなの遊び場だった。虫を見つけたり熟れたトマトを食べたり、いつ行っても何かしらおもしろいことがあった。

3人は住んでいるところが離れていたのに、別々の小学校に入学。同級生はみんなゲームに夢中だった。でも、別にほしいとは思わなかった3人。ゲームって新しいソフト買ったたら古いの使わなくなるんやって。もったいないと思わへん?」文月くん、お母さんにそんな素朴な疑問を投げかけたそう。

やっぱり3人の遊び場は田畑。でも仁一くんと俊一朗くんの家はサラリーマン家庭。自宅は田畑などまったく

のうぎょう
農業モード



がくぎょう
学業モード



元気いっぱい少年少女開墾団。左から丸山晶乃ちゃん&仁一くん兄妹、岩田文月くん、中村俊一朗くん&倫太郎くん兄弟、文月くんの弟の文地くん

荒地も庭も切り拓く! / ぼくらは少年少女 開墾団

食べたいものは畑ごとつくる。
悩む前にタネをまくべし。

DATA	奈良市、三重・名張市
・岩田文月くん(11歳、左)	所属：奈良市立月ヶ瀬小学校
・丸山仁一くん(10歳、中央)	所属：名張市立百合が丘小学校
・中村俊一朗くん(12歳、右)	所属：名張市立桔梗が丘小学校